

トピックス



大阪市北区天満橋1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

「春日奥山古事の森」普及啓発イベントを開催

～「古都奈良のまち並みと木造建築」シンポジウムと町並み探検～



【奈良森林管理事務所】 9月22日（日）、「春日奥山古事の森」を知ってもらおうと、奈良女子大学記念館において、奈良の古い街に建つ町家など伝統的な木造建築について考えるシンポジウム「古都奈良のまち並みと木造建築」が、春日奥山古事の森育成協議会の主催により開催されました。

「春日奥山古事の森」は、歴史的木造建造物の修復用資材の供給に寄与するため、200～400年という超長期にわたる森林づくりとして、平成15年度に春日山原始林に隣接する地獄谷国有林（奈良市）に設定されています。

シンポジウム当日は、一般参加者や春日奥山古事の森育成協議会関係者、ボランティア団体など、約300名が参加しました。第1部では、「歩いて楽しむ奈良町（奈良町と町家の特徴）」と題した、上野邦一奈良女子大名誉教授からの基調講演があり、奈良市内の町家の特徴の紹介や、「じっくりと建物の美しさ・良さを眺めながら歩くのも良い」と町家の魅力が語られました。

基調講演の後、「木造建築物の良さを活かしてまち並み再建」をテーマにコーディネーターと4名の専門家によるパネルディスカッションが行われました。

各パネラーからは、約20年間空き家のまま放置され

ていた建物を改修し町宿（宿泊施設）として再生したエピソードや木造建築の良さ、木の文化の継承について紹介されるなど、伝統建築を活用したまちづくりへのアイデアについて活発な意見交換が行われました。

また、近畿中国森林管理局長からは、「古事の森は木をつくる取組であるが、良い材料があってもそれを使用する技術が必要で、技術の承継を支えていくことも大切。」との意見がだされました。

第2部の「町並み探検」では、きたまち散策、ならまち散策、若草山登山の3コースに分かれ、きたまち散策、ならまち散策では古い町並みを歩きながら、転書門や格子の家などの名所を散策しました。また、若草山登山コースでは、若草山「二合目」に登り、奈良市内の古い町並みの眺望を楽しみました。

参加者からは、「日本の伝統的な木造建築は社寺仏閣だけでなく身近な町家にも引き継がれていることがわかった。」「日本人は昔から木をうまく使ってきたことがわかり、木を使う技術の継承が必要だと思った。」などの感想が聞かれました。

当所では、今後も古事の森育成協議会との連携をし「古事の森」の普及啓発に向けて取り組む方針です。

列状間伐推進のための 現地検討会を開催

【森林整備部 技術普及課】 近畿中国森林管理局では、森林・林業再生に向けた取組として間伐の推進を図るため、独立行政法人森林総合研究所関西支所と「列状間伐施業地における林況変化把握と経営的評価」の試験を行っています。その成果を民有林に普及・定着するため、9月12日（木）13日（金）、府県・市町の間伐担当者、府県の森林・林業研究機関担当者、森林組合職員などを対象にした列状間伐推進のための現地検討会を開催しました。

当日は、石川県をはじめ各県の間伐担当者ら60名が



参加し、1日目には、森林技術・支援センターが平成11年度に列状間伐（2m伐5m残、0.93ha）と※定性間伐（間伐率30%、0.40ha）を実施した水昌山国有林と平成2年度、16年度に列状間伐を実施し、平成24年度に3回目の間伐（列状間伐、定性間伐）を実施した入開山国有林での検討会を行いました。検討会では、列状間伐のメリットとデメリットや集材作業に効率的な列の方向などについて意見がありました。



また、2日目は、会場を森林技術・支援センターの会議室に移し、意見交換会を行いました。参加者からは列状間伐と樹冠長率の関係、2回目の間伐方法、各間伐方法ごとの収益や収穫量の公表など、列状間伐に対する技術的疑問や森林所有者から見た列状間伐に対する考えなど、数多くの意見が出ました。

近畿中国森林管理局では、今後も、技術開発等の成果を民有林関係者の方に、積極的に提供していくこととしています。

※…列状間伐 間伐の方法の一つ。作業の低コスト化等を目的に、伐採や搬出に都合のよいように一定の間隔で列状に間伐を行う方法。

※…定性間伐 間伐にあたっては、どのような木をどのくらい切るかを定める。どのような木を切るかをまず決め、その結果として切る本数が決まる方法。

大山三代目松の下草刈り 及び自然観察会

【鳥取森林管理署】 9月16日（月）、台風18号の影響もなく秋晴れの下、「大山森林生態系保護地域保全管理協力員の会」と連携し、「大山二代目松の下草刈り及び自然観察会」を開催しました。

大山寺参詣の道標として植栽したとされる「大山並木松」の衰退が顕著になったため、大山観光道路沿いの大山国有林に平成22年に植栽した「二代目松」の下草刈りを、一般公募者10名を含む総勢23名で行いました。

参加者たちは、台風一過の強い日射しを受け、汗ばみ



ながらもクズ等を刈り払い、姿を現した二代目松に植栽箇所を明示するため目印のピンクテープを付け、二代目松が今後立派に生長す

ることを願い無事作業を終了しました。

午後からは、保全管理協力員の会の案内により大山寺周辺の「寂静山コース」を散策する自然観察会を実施し、協力員による動植物の説明や大山森林生態系の説明などが行われました。参加者たちは、協力員の説明に熱心に耳を傾けていました。また、寂静山山頂の展望台から大山北壁を遠望して、長年の風雨による浸食で姿を変えていく大山の今後について皆で思いを巡らせました。



最後に、大山情報館前で記念撮影をして、11月に予定している鏡ヶ成方面での自然観察会への参集を呼びかけを行い無事終了しました。

准フォレスター補助者育成 (事業系) 研修II

【森林整備部 資源活用課】 9月10日（火）～12日（木）、森林技術・支援センター（岡山県新見市）において、准フォレスター補助者育成（事業系）II研修を実施し、各森林管理署等から職員13名が受講しました。

この研修は、森林・林業の再生に向け、長期的視点に立った間伐計画の立案等に必要な知識・技術の習得をめ

ざすものです。

初日は、冒頭に資源活用課長から、本研修実施の背景となる最近の森林・林業の情勢、木材価格の動向、用途や流通に至る内容の講義を行いました。

その後、企画官（間伐推進担当）から、研修の進め方等の説明後、3班に分かれて、岡山森林管理署管内の古谷国有林で1,000ヘクタール程度の森林を対象として、森林資源や地形・地質等の情報をもとに、10年間の間伐計画を大まかにイメージし、それに必要な[※]林業専用道の新規開設路線を室内で検討しました。

民有林災害復旧業務の支援活動

【計画保全部 治山課】 7月28日明け方から昼頃にかけて島根県西部、山口県北部、中部で集中豪雨が発生し、その降雨量は島根県津和野町で時間雨量91.5mm、24時間雨量381mm、山口県萩市で時間雨量138.5mm、24時間雨量351mmと観測史上最多となる記録的な豪雨となり、人家、道路、鉄道等交通網に甚大な被害が発生しました。

近畿中国森林管理局では山地災害発生状況の調査のため、島根県、山口県の実地調査を踏まえ、ヘリコプターを

チャーターし7月30日に島根県側を林野庁、(独)森林総合研究所、島根森林管理署、島根県による合同調査を実施しました。翌31日には山口県側を林野庁、(独)森林総合研究所、山口森林管理事務所、山口県による合同調査を実施しました。



2日目の午前中には、実際に古谷国有林の踏査を行い、尾根からの遠望や林内に入って地形を確認するなど、机上で考えた路線の位置で良いかどうか班ごとに検証しました。

午後には、森林技術・支援センターに戻り、まず、現地踏査の結果を踏まえて、林業専用道の新規開設路線のルートを再検討し、その上で10年間にわたる木材の安定供給ができるように区域設定を行い間伐予定年度を定め、これらを合わせた地域の林業ビジョンをまとめました。

最終日には、各班がまとめた地域の林業ビジョンの発表を行いました。

その中で路網計画と間伐計画を一体として考えることの重要性を表や写真を用いてわかりやすく説明する工夫が凝らされており、プレゼンテーション力の向上にもなったことと思います。

この研修を通じて間伐計画の立案からそれに伴う森林作業道新設計画について理解でき、今後の業務の中で活かしていくことが期待されます。

※林業専用道…幹線となる林道を補完し、森林施業の用に供する道です。10t積程度のトラック等の走行を予定するものです。



また、山口県から林野庁に対し災害復旧事業の申請書作成業務等に係る現地調査等の技術的支援として治山技術者の派遣等の要請があり、これを踏まえ8月19日～23日の期間に林野庁職員2名、当局治山課職員2名を派遣し、山口県職員と現地調査や申請書類作成業務を行いました。

また、技術者派遣と併せ山口森林管理事務所の会議室を執務室として提供しました。



檜皮(ひわだ)採取作業、初の見学会開催

【和歌山森林管理署】こんげんやま ひわだ 9月11日(水)、新宮市の権現山国有林で初の檜皮採取見学会を行い、新宮市を中心に串本町、三重県紀宝町等から15人が参加しました。

この見学会は、京都市の公益社団法人全国社寺等屋根工事保存会の協力により開催しました。10年近い檜皮もどかわし採取経験の中堅者(6人)を中心に原皮師養成の場として国有林のフィールドを活用し、檜皮採取の実践経験を高め技術のレベルアップを目指すものです。

当日は、主催者の当署長から「国有林は文化的な資材の貴重な供給源であり、重要な役割を果たしており、このような国有林の取組を広く一般の方に知ってもらうと同時に世界文化遺産に貢献する原皮師育成の必要性を理解していただきたい」と説明しました。

現地では、樹齢100年ほどのヒノキから木ヘラを使い手際良く檜皮を剥がし、リズム良く採取作業する鮮やかな職人芸に、参加者らは普段なかなか見られない光景を見学し、原皮師指導員に気になった点や不明点を質問したり、中には熱心にメモをとったりする参加者など、関心の高さが目を引きました。



当署では、「木の文化を支える森林づくり」として、国宝、重要文化財などの修復資材となる「檜皮採取対象林」を設定、木の文化を未来に残すための「古事の森」づくりに取り組んでおり、今後も「木の文化を支える森づくり」を目指して鋭意取組んでいくこととしています。

林業事業者等(治山・土木)との意見交換会の開催

【森林整備部 森林整備課】9月26日(木)近畿中国森林管理局の大会議室において、三重、奈良、和歌山署等の管内に所在する林業事業者等(治山・土木)との意見交換会を行いました。この取組は、国有林野の管理経営に皆様の意見・要望等を役立てることを目的として開催しました。

事前に森林管理局のホームページで参加者を募集したところ、当日は26社28名の方が参加されました。

はじめに当局長より、「皆様に担っていただいている治山事業や林道事業は、地域住民の生命・財産を守り、地域林業の活性化を図る観点から計画的かつ着実に推進することが重要となっている。本日は、皆様方から忌憚のないご意見を伺い、今後の治山・林道事業の円滑な実施の検討に活用させていただきたい」との挨拶の後、当局から、①平成25年度の重点取組の進捗状況、②発注者綱紀保持対策、③請負事業者等の災害防止に向けた事例紹介等による注意喚起、④治山・土木工事における優良事例等の情報提供を行った後、意見交換を行いました。

参加者からは、コンクリート単価に関する要望や技術提案書の記載内容に関する質問や、当局における治山・林道工事で発生している不落・不調の要因に係る議論がなされ、その中では、今後の発注について、参考となるご意見をいただき大変、有意義な会議となりました。

今後、10月～11月にかけて3ブロック(石川・鳥取・広島)において、同様の会議を予定しており、併せて10月に造林・生産事業における林業事業者等とも意見交換を行う予定です。今回行った意見交換の内容等については、ホームページに順次、掲載することとしています。



宮川源流・大杉谷の「木々とシカとの共生」を求めて ～ボランティア実施～

【三重森林管理署】9月28日(土)、大台ヶ原に隣接する大杉谷国有林で、公募で集まったボランティアにより、ニホンシカの樹皮剥ぎを防ぐために木にネットを巻く作業を行いました。

大杉谷国有林は、清流として広く知られている宮川の源流部に位置し、その一部が大杉谷森林生態系保護地域に指定されています。大杉谷国有林から大台ヶ原にかけては、かつては鬱蒼と木々が立ち並び苔むす森でしたが、樹木がニホンジカの食害を受け、森林の衰退が進んでいます。当署では、平成10年から食害に遇いやすいトウヒ、ウラジロモミなどを守るため、樹木の幹の部分にネットを巻いたり、林内にニホンジカが入れないように防護柵を設置してきました。また平成12年からは、一般の方々にも作業に参加していただくようになり、今年も、三重県内をはじめ、大阪府や静岡県から26名のボランティアに参加していただきました。



大杉谷・大台ヶ原山系は、霧が発生することが多く、当日も霧の中での作業となり

ましたが、ボランティアのみなさんは協力して手際よく作業を行い、用意した200枚のネットを全て巻き終えることができました。樹皮が外に出ないように、根元の部分もネットを木の形に合わせて加工しながら丁寧に作業を進めていました。

大台ヶ原はこれから紅葉シーズンを迎え、大勢のハイカーでにぎわう季節に入ります。ボランティアのみなさんの地道な活動も、多くの方々に大台ヶ原の自然を楽しんでもらうための一翼を担っています。毎年参加して下さるリピーターの方も多く、今後も活動の輪を少しずつ広げながら、継続していくことが必要であると感じました。



花草木



今号は彼岸花！
 俳句の季語では曼珠沙華（まんじゅしゃげ）で仲秋の区分になります。
 リコリスや曼珠沙華とも呼ばれ、各地方によっても色々な別名のある真っ赤な色が印象的な花です。
 「彼岸頃から開花するから」、「彼岸（死）しかない」（全草有毒で、アルカロイドを多く含む。吐き気、下痢、重度は中枢神経の麻痺を起して死亡する場合も。）からなど、名前の由来になっていたりするようです。
 が！お隣の韓国では、상사화（相思華）と呼ばれるたりするそうです。本来は、상사화は「夏水仙」の事を指すそうです。夏水仙も彼岸花もよく見る花草のように、葉と花を一緒に見ることができません。時期が全く違うんです。葉があると花はなく、花が咲く時には葉がない。「花は葉を思い、葉は花を思う」というところから「相思花」と夏水仙と混同して呼ぶようになったようです。日本では癖ある由来やイメージのある花ですが、「想うはあなたあなた一人」の花言葉にぴったりなのかもしれませんね。

お知らせ

「森林の調査隊!! フォトコンテスト」作品募集!!

箕面森林ふれあい推進センターでは、「森林(もり)の調査隊!! フォトコンテスト」の作品を募集しています。募集締切：平成25年10月31日(木曜日)必着
 本フォトコンテストの応募作品に記載される個人情報は、本フォトコンテストの運営に必要な範囲で利用します。詳しくは、箕面森林ふれあい推進センターホームページ内 http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/information/morinochousatai.html

森林のギャラリー(局庁舎1階)

【10月の展示スケジュール】

テーマ：森林の市

9/30～10/11 「オフィスや住まいに木づかいを」展示会

【近畿中国森林管理局 企画調整課】

9/30～10/18 「大野市の特産林産物等の普及啓発」

【大野市 農林整備課】

10/21～10/25 「日本日曜大工クラブ大阪支部作品展」

【日本日曜大工クラブ大阪支部】

10/21～11/1 「木炭・木炭コンロの普及」《展示BOXのみ》

【近畿中国森林管理局 技術普及課】(協力：全国燃料協会)

シリーズ 保護林 第5回

近畿中国森林管理局の保護林

おんすい

音水林木遺伝資源保存林 [揖保川森林計画区]



音水林木遺伝資源保存林は、兵庫県宍粟市に位置する音水国有林にあります。中国地方における、スギ、ヒノキ、トチノキも林木遺伝資源の保存を目的として保護されています。

この保護林の面積は48.48haで、氷ノ山後山那岐山国定公園、水源かん養保安林、特別母樹林、遺伝子保存林などにも指定されています。

林道入り口付近の音水渓谷は紅葉の名所として知られ、遊歩道が整備されており観光客が訪



スギ



保存林遠景



- 【音水林木遺伝資源保存林に生息・生育する動植物】
- ◎ 植物：スギ、ヒノキ、ブナ、ミズメ、トチノキ、コハウチワカエデ、リュウウブ、サラサドウダン、アセビ、チシマザサ、ハイイヌツグ、シシガシラなど
 - ◎ 動物：ツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシ、キツネ、タヌキなど
- 【音水林木遺伝資源保存林へのアクセス】
- ◎ 国道29号線から・・・国道29号線より音水川沿いに赤西林道を上り、林道終点からアプローチ。周遊登山道あり。



- 【保護林及び国有林内での注意事項】
- ★ 国有林内の動植物の捕獲、採集はできません。
 - ★ 国有林内では火気厳禁です。林内では禁煙にご協力ください。
 - ★ 自然環境の保護と安全な利用のために、歩道等を外れないようにお願いします。
 - ★ 林道は幅が狭い未舗装の所がほとんどです。落石の危険性もあります。注意して通行してください。
 - ★ ツキノワグマ生息域です。熊鈴をつけるなど、装備は万全にしてください。

